

労働者協同組合法  
成立記念作品

人は人のために働いて  
支え合い、  
人のために死ぬ。  
結局はそれ以上でも  
それ以下でもない。

これは人間の仕事である。

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは！

映画上映&ミニワークショップ

11月17日(日)午後3時～

会場：鹿児島市吉田福祉センター（鹿児島市本城町 1687-2）

参加費：一般500円（学生 無料）

# 医師中村哲の 仕事・働く ということ

語り◎室井滋 朗読◎塚本晋也

写真・映像提供◎ベンチャーフィルム会/PMS

企画・提供◎日本労働者協同組合（ワーカーズユニオン）連合会センター事業団

一般社団法人 日本社会連帯機構

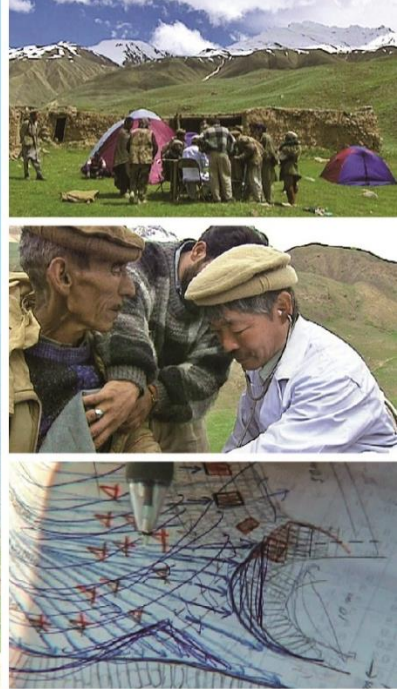
製作◎日本電波ニュース社 HD/16:9/カラー/47分





医師中村哲の  
仕事・働く  
ということ

アフガニスタンとパキスタンで、  
病や戦乱、そして干ばつに  
苦しむ人々のために  
35年にわたり  
活動を続けた男がいた。

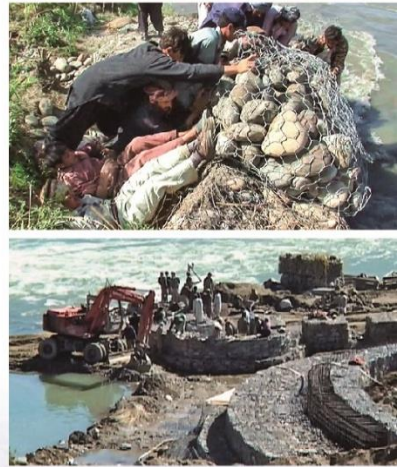


1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は『現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと』である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



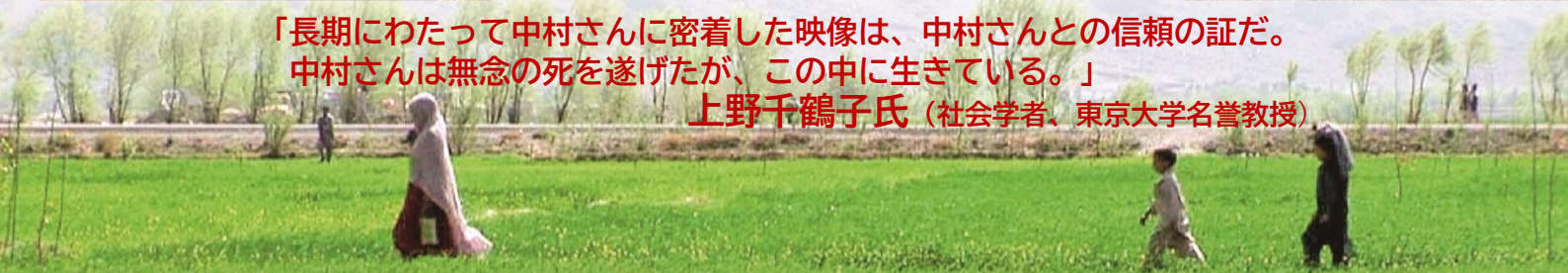
そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。

親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。  
中村医師は言う「これは人間の仕事である」



「長期にわたって中村さんに密着した映像は、中村さんとの信頼の証だ。  
中村さんは無念の死を遂げたが、この中に生きている。」

上野千鶴子氏（社会学者、東京大学名誉教授）



私たち労働者協同組合（ワーカーズコープ）はその産声を上げたときから「失業・貧乏・戦争をなくせ」をスローガンに活動してきました。中村医師の生き方、働き方に強く共鳴し、21年の歳月をかけて中村医師を記録してきた日本電波ニュース社に依頼し、「働くこと」と「仕事観」に焦点を当てて作られたのが本作品です。ウクライナ、ミャンマー、シリア・・・世界は不安に覆われ、何の罪も無い民の命が理不尽に奪われ続けている今だからこそ、この映画を全国に届けることを私たちワーカーズコープは願っています。2020年に労働者協同組合法が成立し、市民のみなさんも協同組合の法人格が取得でき、市民主体で持続可能な地域づくりに向かう新しい時代に入りました。「子どもも大人も誰もが安心安全に暮らせる地域、いつまでも大好きな地域づくり」について、この映画を通して一緒に考えてみませんか？

11月17日（日）午後3時～（上映時間47分）

※上映後、ミニワークショップ・座談会を行います。是非ご参加ください。

会場：鹿児島市吉田福祉センター（鹿児島市本城町 1687-2）

開場：上映30分前より受付

参加費：一般500円（学生 無料）

お申込：電話 0995-66-3395（始良地域福祉事業所 第2児童デイサービスおひさま）

主催：労働者協同組合労協センター事業団 鹿児島始良事業所

後援：鹿児島市